

令和5年度学校評価（教職員による自己評価 および 関係者評価）

令和6年 4月 15日
静岡聖光学院中学校・高等学校

建学の精神	カトリック的世界観にのっとり、人類普遍的価値を尊重する人格の形成、あわせて高尚かつ有能なる社会の成員を育成する。
重点目標	①学校目標を「ともに歩む」と定め、生徒に積極的で自覚的な学校生活を送るよう呼びかける。 ②6カ年継続した進路指導・学習指導の体制を充実させる。 ③学校での学習活動（良質の授業および補習など）に加え、家庭学習の指導や保護者面談を通じて生徒・保護者の満足度を高める。

評価基準(自己評価)	A：十分に達成できた	B：おおむね達成できた	C：あまり達成できなかった	D：全く達成できなかった
評価基準(学校関係者評価)	A：十分に評価できる	B：おおむね評価できる	C：少し物足りない	D：評価できない

	評価項目	具体的取組	◆ 自 己 評 価		◆ 学 校 関 係 者 評 価	
			現 状 (成 果) と 来 年 度 へ の 課 題	評 価	評 価	意 見 ・ 提 言 等
教 務	【重点目標】生徒の学習活動全般の円滑な運営、授業の質の向上、生徒の学力向上、時代に即した教育活動を展開する。 51期より行われている教育課程の検証を行う	・教員アンケート ・他校の教育課程との比較検証	自由選択科目が発生したことで、時間的にゆとりがある生徒が生まれた。意図したものであるが、この時間を持て余してしまう生徒も少なからずいる。こうした生徒への手立て（ある程度自由度のたかいもの）を検討していく。	B	B	自由であるが故に自己責任が伴う事や、その間に出来る事があるなど多くの選択肢を設けるべき。
	観点別評価についての検証	・教科による検討 ・他校での実践の情報収集と検討 ・パフォーマンス課題の評価方法についての検証	評価については、試験評価だけではなく、それ以外での部分での評価割合も増えている。全体での研修の機会や検討の機会を設けることをしていきたい。			
進 路 指 導	【重点目標】一人一人が自分の将来をイメージし、学びたい学問を見つけ、希望する学府への進学を目指すよう、意欲を引き出す。 多様な学問の研究領域情報を提示し、将来にわたってライフワークできる学問を見つけさせるとともに、大学へ進学することの意味を考えさせる。	オープンキャンパス、学部・学科ガイダンス、その他各業者の進路雑誌や大学情報の提供。	R-capとLEADSを採用。職業観と学習観を醸成。リクルートによるオープンキャンパスへの参加に向けての準備と心構えのレクチャーを受け、充実した進路指導となった。e-passを利用し、オンラインで各学部の特徴や指定校推薦の大学の説明していただいた。昨年よりもオープンキャンパスへの参加者が増え、大学への意識を高めることができた。中3からの進路意識の向上と高1からの大学受験への意識向上にも繋げることができた。	A	A	オンラインでのオープンキャンパスはとても充実していて大学の学部の特徴などとてもわかりやすく良かった。 個々別の能力を伸ばすために外部機関に頼る事と共に、進学実績のスキルのある横浜聖光学院との関わりを深めていくのは、学校の宣伝にもなり、大きな相乗効果になる。
	外部模試や講習を提供し、積極的な参加を促すとともに、定期試験や外部模試における振り返りをさせることで、最終段	定期試験や外部模試に向けての事前指導とリフレクションの徹底。	ASGセンターにも定期試験対策と振り返りを実践してもらった。外部模試の結果をもとに個別の学習面談を充実させた。高3生で難関大学を志望する生徒には個別大学模試を斡旋し、			

	階である大学入試に向けた学力と精神面における自信の獲得を目指す。	高3生への大学別外部模擬の推奨	学習戦略の意識を高めることができた。外部模試の日程を統一日より遅くすることで、実施後の復習をその日のうちにやることのできるようになっていきたい。			中学段階でさらに意識を高めさせてたい。
進路指導	生徒のために入試で様々な進路選択ができるように多種多様な受験方式に対応するための環境を整備する。	一般選抜の受験方式の情報提供。早期に総合型選抜、学校推薦型選抜の情報提供。	総合型選抜で受験する生徒にいつまでにどれだけの準備が必要なのか、具体的なスケジュールを提供。生徒一人一人についてどの受験方式がより結果に繋がるのかを作戰をたて、個別面談に臨んだ。			
	生徒の進路実現のために、外部との連携を強化する。	ASGセンターや個別指導に対し定期的な情報共有。スタディウム・カンザキメソッドとの実施報告と情報共有	ASGセンターは200名以上の参加者から始まった。定期試験の問題定期試験対策プリント、授業プリントなどの情報を共有し、基礎の積み重ねを強化してもらった。 夏期講習をはじめとして、中学3年、高校1年の医学部対策講座を実施。河合塾の村瀬先生、横浜の聖光学院の小泉先生や他の先生の協力を得て、医学部を目指す生徒に対するサポートを確立することができた。 横浜の聖光学院の先生に個別に学習カウンセリングや過去問の添削指導を定期的にしていただいた。希望者に聖光学院での夏期講習を受講させ、難関大志望者の学習意欲の向上と学習方法の確立に結びつけた。			
	【重点目標】様々な視点で物事を捉え、自らの言動に責任を持ち、決断できる人材育成					
生徒	日常生活習慣（校内環境美化活動等）を見直し、確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内美化活動（毎日の掃除） ・HR、授業前環境整備、15秒黙想 ・生徒3S（整理・整頓・掃除）活動の推進 ・朝登校指導 	定期的な日常の清掃指導とは別に学校全体で整理整頓の指導を行う。環境面を整備することで生徒の心の安定を図り、学校活動での充実を目指した。一部の箇所環境整備が行き届かない箇所があったこと、そのような場面で生徒主導で改善ができなかったことがあった。朝指導については声かけ指導を全教員で担当できたが、次年度はより生徒の側で効果的な指導を行う必要があるとされている。	B		環境整備は教育の基本として繰り返し指導すべきである。同じ事を共有し合う事は互いに褒め合う事につながり良い校風へとつながっていく。
指導	校外生活（交通安全・登下校のマナーアップ）の指導に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・中高別で交通安全教室の実施。 ・中学1年生を対象に自転車通学許可テストの実施。 ・自転車登校、駐輪場使用指導の実施。 ・本校独自の校外巡視登下校指導を重点に実施。 	登下校のマナーについては啓発活動ができ、概ね良好であった。一部の生徒の振る舞いについて校内外からご連絡があったことがあるので、時期を見極めて周知徹底をしていきたい。交通安全教室の実施はスケジュールの都合上、外部講師を招いての活動はできなかったため次年度は早めに計画を立てたい。		B	学校訪問の際、生徒の挨拶等大変良い。

宗 教 教 育	【重点目標】カトリックミッション校に相応しい教育活動のさらなる充実を推し進める。		B	A	<p>やらされているではなく「意思を持って」行動できると良い。日々の生活の中でも困っている人、目の前の人にやれる人になってほしい。</p> <p>イルミネーションコンサート、カウントダウンなど伝統行事が地域との繋がりになり、とても素晴らしい。</p> <p>ミッションスクールであると共に神聖な事に触れていくことは大きな学びである、生きる力につながっていく。</p> <p>この年代で祈りの時間を持つことの素晴らしさ、人生最大のプレゼントになる。</p>
	<p>カトリック精神に則り、宗教活動をチャプレン（横浜教区）と連携しながら、コロナ禍以前の状態を意識しつつ充実させる。</p>	<p>* 祈りの時間（月2回程度）</p> <p>* ミサ等（月例ミサ、みことばの集い、記念ミサ（全校規模、聖トマス・モア記念ミサ及びクリスマスミサ））</p> <p>* 生徒、教員、保護者向けの宗教的企画・活動（聖書研究会、講話、黙想会等）</p>			

			<p>ートルダム 清心中・高等学校有志との交流を行った。交流を始めて今年度で3年目となり、今年はオンラインでみことばの分かち合いを進めた。</p>			
宗教活動	<p>宗教活動委員会の活動を充実させる。</p>	<p>* ボランティア情報発信・実践</p> <p>* 待降節の準備（イルミネーション装飾、校内装飾、クリスマスカード作成、イルミネーション点灯式（近隣住民招待））</p>	<p>* 夏休みを中心に、社会福祉協議会や県ボランティア協会によるボランティア募集の取次を行った。</p> <p>* 秋田の水害で被害を受けた秋田聖霊高校支援のため校内募金を行い、日本カトリック学校連合会を通して寄付金を送った。</p> <p>* 能登半島地震で被災した海の星幼稚園（輪島市）と聖母幼稚園（七尾市）支援のための校内募金を行い、直接各園に寄付金を送った。</p> <p>* 生徒が作成したクリスマスカードを、募金先の能登のカトリック幼稚園の他、県立こども病院へ送った。ボランティア活動を進める上では、教員への意識喚起が必須であり、今後の検討課題と考えている。</p> <p>* 宗教活動委員会生徒の他、ボランティア生徒の協力により、待降節に間に合わせてイルミネーションを完成し、近隣住民や保護者を招いてイルミネーション点灯式を行った。点灯式では、司祭の話、ミニコンサート、カウントダウンを行った。伝統行事として学内外に定着している。</p>			
キャリア	<p>【重点目標】多様な経験の中で自己と他者・社会への理解を深め、自分で学ぶことができる生徒を育む。</p> <p>自己と向き合い、他者や社会との関わり方について、経験を通じて学ぶ。また、そのスキルを体験的かつ体系的に学ぶ機会を設ける。</p>	<p>中学1年生LGキャンプ 中学2年生LGキャンプ 中学1年生「総合」 中学2年生「ゼミ」 高校1年生「総合」</p>	<p>LGキャンプについては、他者との関わりを経験を通じて学ぶ機会をつくることができた。中学1・2年生の総合とゼミについては、今年度は聖光祭で発表会の機会を新設し、保護者に生徒の成長を見てもらう機会となり好評を得た。また、高校1年生の総合は個人研究を各々深める時間として使うことができた。</p> <p>。来年度の課題としては、中学1・2年生のLGキャンプの質をより高くすることが挙げられる。現状、中学1年生はつま恋の研修チーム、中学2年生は株式会社アグサに、チームビルディングを外注している。株式会社アグサは中高生を主なターゲットとして経営しているため、中学生のチームビルディングを得意としており、本校の生徒の満足度も高い。再来年度以降は、つま恋の研修チームからアグサに発注先を変更しようと検討している。（来年度の中学1年生はアグサの予約が取れなかった</p>	A	A	<p>LGキャンプはとても良い経験となり、アウトドア研修は生徒の絆を深める最高の経験になる。</p> <p>こうした機会を聖光祭で発表する場がもてた事はとても大きな学校の宣伝になる。</p>

アカデミア	<p>自己実現の方向性を考える経験を通して、自らの抱く使命感とその領域性を模索する機会を設ける。</p>	<p>高校1年生キャリアキャンプ 高校1年生個人研究 Inspire Highの利用</p>	<p>ため、つま恋の研修チームに依頼している)</p> <p>今年度の成果として、個人研究の指導と評価にルーブリックを作成して、使用したことが挙げられる。これにより、生徒が目指すべき姿と教員が指導すべきスキルを明確にして指導にあたる体制をつくることができた。また、評価を集計することで今年度の指導体制のストロングポイントが「課題設定」(平均スコア3.5)であり、ウィークポイントが「計画性」(平均スコア2.6)であることを定量的に分析することができた。(スコアは最大4、最小1)</p> <p>以上の分析から、来年度の課題は「計画性」の指導計画作成と実施であるといえる。また、教員全体のルーブリックへの理解と実践経験も課題であるが、これについては後述する。</p> <p>Inspire Highは特に中学1年生で多く活用した。Inspire Highの動画を使用して、世界で活躍する多様な大人の価値観に触れながら、現在の自分の価値観から未来の自分がどのようにありたいか・どんな貢献をしたいかを考えた。また、考えたことを発表会で保護者見学のもとアウトプットした。</p> <p>キャリアキャンプでは、生徒がメタ的視点で自分自身の経験や価値観を掘り下げて興味関心を探り、個人研究に接続する意図で行なった。株式会社ミエタに外注して連携してプログラムをつくったが、生徒が自分の価値観や経験を掘り下げる自由記述の形式のハードル高かった。来年度は自由記述ではなく、価値観カードなど、考えるきっかけやテーマを使ったプログラムにしたい。</p>		
	<p>文化的雰囲気醸成と、生徒の個性・研究成果をアウトプットし、フィードバックを得る機会を設ける。</p>	<p>学内誌「静聖」の発行 静聖委員会の組織と実施 プロジェクト(生徒主導の課外活動)の実施 (自然科学賞候補者発表会の開催) (自然科学賞の受賞者の表彰) →理科が主導で実施している</p>	<p>静聖は滞りなく発行することができただけでなく、刊行の目的である「文化的雰囲気醸成と、生徒の個性・研究成果をアウトプット」を、さらに向上することができた。今年度の静聖は上記の目的を達成するために「学校生活」の章の内容の充実を掲げていた。その結果、ページ数は昨対比1.3倍(82ページから110ページに)、生徒による寄稿数は昨対比2.9倍(14本から40本に)と、大幅に上昇した。</p> <p>また、校外と連携したプロジェクトも複数展開されており、水中ドローンを使用して消失藻場の再生を目指すプロジェクトでは、静岡市や国際フォーラムISAP2023から招待を受け、発表を行うなど社会貢献度と注目度の高い活動を行うことができた。静聖とプロジェクトについて、来年度も今年度と同様の目的と考え方、アプローチで継続する。</p>		
	<p>生徒のコンピテンシーを育てるための評価のあり方と、その方法論を教員が学び、実践し、教員間で研鑽する機会を設け</p>	<p>教員研修の実施 (7月?12月、3部構成で実施)</p>	<p>アカデミア部員の教員3名により、3部構成で年間3回実施した。のべ30名程度の教職員が参加した。筆記試験等により正誤で測定できる知識・スキル以外のコンピテンシーを育て、評価す</p>		

る。		<p>るための仕組みを学んだ。具体的には、ルーブリックの考え方・作成の仕方・運用の方法を学び、実践を促した。</p> <p>また、「学びに天井をつくらない」「生き方を創造する」というビジョンを達成するために、①「学びに天井をつくらないための授業づくり」と、②「生き方を創造するための指針（ルーブリック）の作成と運用」である。①は昨年度「概念型学習」の研修を行い、②は今年度「評価の研修」でルーブリックを学んだ。参加者の先生方からのリフレクションから、参加者の評価観をアップデートできたことを実感できた。来年度の課題としては研修内容の実践とフィードバックが挙げられる。来年度期末の状態目標として、各教科で1人以上の実践者をつくりたい。</p>		
----	--	--	--	--

【重点目標】			A	さらなる国際経験を望む。 コロナ前に限らず、コロナ明けによって作られた環境をより一層広げて行って欲しい。
<p>長期留学生受け入れ・指導 (留学斡旋団体を介さずに自前で)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・タイからの留学生受け入れ（中学3年） ・インドからの留学生受け入れ（既卒生） ・インドネシアとネパールから「アジア架け橋生」受け入れ（高校1年） 	<p>・留学生を斡旋する団体を介さずに、直に長期留学生を2名受け入れることができた。初となる中学生受け入れ、そして既卒生で本校から静岡大学進学を目指す受験生の受け入れといった、新しいモデルを確立することができた。後期の4ヶ月間「アジア架け橋生」2名を昨年度に続き受け入れることができた。</p>		
<p>海外校との交流継続・拡大 (コロナ禍以前より増やす)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・MOU締結校との交流再開 ・ラグビー交流再開 ・アジア以外の地域との提携校を増やす ・日本語交流プログラムの企画 	<ul style="list-style-type: none"> ・MOU締結校のシラパオ・スクールとワチラウッド・カレッジと交流を発展させることができた。 ・コロナ以降初めてラグビーの国際大会（マレーシア）に招待された。 ・ラグビーを通じてイギリス連邦の学校と教育協定を結びたい。 ・ヨーロッパの学校を中心に日本語交流プログラムを企画したい 	A	A